

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 辻 哲也 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 准教授

研究要旨

高齢者がん医療を考える会議等の、がん医療やがんリハビリテーションに携わる有識者の意見を聴き、拠点病院等における高齢がん患者に対するリハビリテーション診療のあり方（正しい知識の普及・人材育成・提供体制の整備・研究の促進）を検討した。また、高齢者がん医療 Q&A 総論においては、がんのリハビリテーション診療の章を執筆した。モデル事業として開始された「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言（PCO）」においては、支持・緩和医療ワーキンググループに所属し、リハビリテーションのセクションを担当、Minds ガイドライン作成マニュアルに則って、策定作業を始めた。

さらに、厚労省研（がん対策推進総合事業）がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究（研究代表：辻哲也）においては、グループワークを実施し提言をまとめた。AMED 革新的がん医療実用化研究事業「外来がんリハビリテーションの効果に関する研究（研究開発代表者：辻哲也）」においては、がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版を2019年6月に刊行、その中で、「高齢がん患者の特徴・評価」を掲載し、高齢がん患者のリハビリテーションの普及・啓発の一環とした。

A. 研究目的

高齢者がん診療ガイドライン策定に必要な基盤整備をするにあたって、高齢がん患者における、がんのリハビリテーション診療のあり方を検討し、同診療ガイドラインに反映させることを目的とする。

がん医療に携わる多方面の専門家から構成される班員との意見交換を行い、がんリハビリテーション医学・医療の専門の立場から発言を行い、コンセンサスを得た。

2) 高齢者がん医療協議会（12月）への参加

高齢者医療全般に携わる多方面の専門家との意見交換を行った。

3) JCOG 高齢者研究委員会コアメンバー会議（2月）への参加

委員会のコアメンバーに就任し、高齢者がん医療に携わる多方面の専門家から構成される委員との意見交換を行った。

B. 研究方法

研究班と高齢者がん医療協議会が協働し多くの協力者の支援を得て、高齢がん患者における、がんのリハビリテーション診療現状の調査、これまでのエビデンスを収集・解析して Q&A の形で整理する。

新たに設置される高齢者がん診療ガイドライン委員会においては、リハビリテーションのセクションを担当し、ガイドライン（GL）作成に向けて具体的な検討に入る。

・高齢者がん医療 Q&A 総論においては、下記のとおり、がんのリハビリテーション診療の章を執筆した。19年2月にパブリックコメントを募集、その結果を受けて、加筆修正を行い、20年6月に日本サポーターケア学会ホームページに掲載された。

総論

- 1.がん医療におけるリハビリテーション診療の意義
- 2.高齢がん患者におけるリハビリテーション診療の重要性
- 3.がんのリハビリテーション医療の定義
- 4.がん患者に生じうる障害の種類

C. 研究結果

・がん医療やがんリハビリテーションに携わる有識者の意見を聴き、拠点病院等における高齢がん患者に対するリハビリテーション診療のあり方（正しい知識の普及・人材育成・提供体制の整備・研究の促進）を検討した。

1) 2回の班会議（5月、1月）への参加

- 5.がんのリハビリテーション診療の病期
- 6.高齢がん患者のリハビリテーション診療において用いられる評価法
- 7.がんのリハビリテーション診療の実際
- 8.高齢がん患者のリハビリテーション診療に影響を与える主な問題

各論

- Q1.高齢がん患者のリハビリテーションにおける身体機能評価を行う際の留意事項は何ですか？
- Q2.高齢がん患者の周術期リハビリテーションにおける留意事項は何ですか？
- Q3.高齢がん患者の化学療法・放射線療法中後のリハビリテーションにおける留意事項は何ですか？
- Q4.高齢がん生存者にリハビリテーションは必要ですか？

モデル事業として開始された「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言（PCO）」においては、支持・緩和医療ワーキンググループに所属し、リハビリテーションのセクションを担当、Minds ガイドライン作成マニュアルに則って、策定作業を始めた。

・厚労省研（がん対策推進総合事業）がんリハビリテーションの均てん化に資する効果的な研修プログラムの策定のための研究（研究代表：辻哲也）においては、2019年度にがん医療に携わる多方面の専門家や患者会代表者が参加し、2回のグループワークを実施、その中で、高齢がん患者のリハビリテーション診療のあり方についても議論を行った。その成果を、「がんのリハビリテーション医学・医療のあり方」として提言をまとめた。

・AMED 革新的がん医療実用化研究事業「外来がんリハビリテーションの効果に関する研究（研究開発代表者：辻哲也）」においては、がんのリハビリテーション診療ガイドライン第2版の策定作業を進め、2019年6月に刊行された。その中で、第1章 総論・評価において、「高齢がん患者の特徴・評価」を付記として掲載し、高齢がん患者のリハビリテーションの普及・啓発の一環とした。

D. 考察

高齢者ががん診療指針策定に必要な情報と解析が行われ、がん治療は可能だが標準的な治療は困難な prefrail が多数おり、そのマネジメントにおいては、リハビリテーションアプローチが重要であることが分かった。

その課題克服に向けて、診療ガイドライン作成委員会において、がんリハビリテーションの観点から、議論を進めていくことが適切であると考えられた。

E. 結論

エビデンスの少ない高齢者のがん診療において指針を作成していくには、様々な調査や大腸がんモデル事業を通して臨床的提言を行うことによりその方向性が明らかとなり、大腸がんの診療ガイドラインの作成につながり、それ以外の領域でもにも波及することが予想される。そのプロセスの中で、がんリハビリテーション診療の意義・役割や効果、具体的な取り組みの内容を反映させていくことが必要とされる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Naito T, Mitsunaga S, Miura S, Tatematsu N, Inano T, Mouri T, Tsuji T, Higashiguchi T, Inui A, Okayama T, Yamaguchi T, Morikawa A, Mori N, Toshiaki T, Strasser F, Omae K, Mori K, Takayama K: Feasibility of early multimodal interventions for elderly patients with advanced pancreatic and non-small-cell lung cancer. J Cachexia Sarcopenia Muscle 10: 73-83, 2019.
- 2) Miura S, Naito T, Mitsunaga S, Omae K, Mori K, Inano T, Yamaguchi T, Tatematsu N, Okayama T, Morikawa A, Mouri T, Tanaka H, Kimura M, Imai H, Mizukami T, Imoto A, Kondoh C, Shiotsu S, Okuyama H, Ueno M, Takahashi T, Tsuji T, Aragane H, Inui A, Higashiguchi T, Takayama K: A Randomized Phase II study of

- nutritional and exercise treatment for elderly patients with advanced non-small cell lung or pancreatic cancer: the NEXTAC-TWO study protocol. *BMC cancer* 19: 528, 2019.
- 3) Morishita S, Onishi H, Tsuji T, Aoki O, Fu J, Hirabayashi R, Tsubaki A: Assessment of the Mini-Balance Evaluation Systems Test, Timed Up and Go test, and body sway test between cancer survivors and healthy participants. *Clin Biomech* 69: 28-33, 2019.
 - 4) Shimoda K, Imai H, Tsuji T, Tsuchiya K, Tajima H, Kanemaki H, Tozato F: Factors affecting the performance of activities of daily living of patients with advanced cancer undergoing inpatient rehabilitation: results from a retrospective observational study. *J Phys Ther Sci* 31: 795-801, 2019.
 - 5) Akezaki Y, Tominaga R, Kikuuchi M, Kurokawa H, Hamada M, Aogi K, Ohsumi S, Tsuji T, Kawamura S, Sugihara S. Risk factors for lymphedema in breast cancer survivors following axillary lymph node dissection. *Progress in Rehabilitation Medicine* 4: 20190021, 2019.
 - 6) Ishikawa A, Otaka Y, Kamisako M, Suzuki T, Miyata C, Tsuji T, Matsumoto H, Kato J, Mori T, Okamoto S, Liu M. Factors affecting lower limb muscle strength and cardiopulmonary fitness after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Support Care Cancer* 27: 1793-1800, 2019.
 - 7) Morishita S, Nakano J, Fu JB, Tsuji T. Physical exercise is safe and feasible in thrombocytopenic patients with hematologic malignancies: A Narrative Review. *Hematology* 25: 95-100, 2020.
 - 8) Tsuji T: The Front line of cancer rehabilitation in Japan: current status and future issues. *Journal of Cancer Rehabilitation* 2: 10-17, 2019.
2. 学会発表
 - 1) Tsuji T. Current status of cancer rehabilitation in Japan and the challenges. Invited Lecture. The first Anniversary of Hokuto Rehabilitation Center Memorial Conference. 2019/5/29 Vladivostok Public First Hospital, Vladivostok, Russia.
 - 2) Tsuji T. The Front Line of Cancer Rehabilitation in Japan. Korea and Japan Combined Symposium: Several rehabilitation medicine fields currently hot in both countries. The 56th Annual Meeting of Japanese Association of Rehabilitation (JARM). 2019/6/12 Kobe International Conference Center, Kobe, Japan.
 - 3) Tsuji T. The front line of lymphedema treatment in Japan. Invited lecture. The Annual meeting of Korean Society of Lymphedema (KSL). 2019/11/22 Seoul, Korea.
 - 4) Tsuji T, Kawate N, Sakai Y, Kurihara M, Takakura Y, Oba J, Shimazaki H, Kanda T, Sugimori N, Kobayashi T. Education and Training Activities for Cancer Rehabilitation in Japan: The CAREER (Cancer Rehabilitation Educational Program for Rehabilitation Teams) Project. The 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM) World Congress. Kobe, Japan, 2019.
 - 5) Tsuji T, Kumagai Y, Masujima M, Kimata Y, Maegawa J, Takashima K, Yoshizawa I, Yagata H, Tsugawa K, Utsugi K, Watari H, Yamamoto Y, Kondo K, Sugihara S, Oku T, Tajiri H, Ogawa Y, Iwata H, Sasaki H, Kitamura K. Promotion of lymphedema treatment in Japan: Education and training activities for lymphedema therapists. Annual Meeting on International Symposium on Supportive Care in Cancer 2019. San Francisco, USA, 2019.

- 6) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療ガイドライン 2019 改訂版のエッセンス. 教育講演 27. 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2019/6/14 ポートピアホテル南館 兵庫県神戸市.
- 7) 辻哲也. リハビリテーション科医の立場からの自立・自律の支援. シンポジウム 緩和ケアにおける安全と自律のジレンマ～患者・家族・医療者の思いとジレンマ～. 第 24 回日本緩和医療学会学術大会. 2019/6/21 パシフィコ横浜 会議センター 神奈川県横浜市.
- 8) 辻哲也. 乳癌患者におけるがんのリハビリテーション診療の重要性. シンポジウム 9 治療後遺症. 第 27 回日本乳癌学会学術総会. 2019/7/11 京王プラザホテル錦 第 5 会場 東京都新宿区.
- 9) 辻哲也. 就労に向けたがんリハビリテーションの重要性. スポンサーディンポジウム 2 がん患者の包括的ケアを考える～就労支援の視点から～. 第 27 回日本乳癌学会学術総会. 2019/7/12 京王プラザホテルコンコード A・B 東京都新宿区.
- 10) 辻哲也. がんリハビリテーション. 患者・家族向けプログラム (PAP) 講演. 第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2019/7/20 国立京都国際会館 京都府京都市.
- 11) 辻哲也. がんトリハビリテーション栄養. 講演. Nutrition Day～がん治療と栄養～. 聖路加国際病院トイスラー記念ホール. 2019/8/2 東京都中央区.
- 12) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療 最新のエビデンスとプラクティス. 講演. 第 42 回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会. 2019/8/31 名古屋市立大学病院大ホール 愛知県名古屋市.
- 13) 辻哲也. がんリハビリテーション Year in Review. 講演. 第 4 回日本がんサポーターズケア学会学術集会. 2019/9/7. リンクステーションホール 青森 青森県青森市.
- 14) 辻哲也. がんのリハビリテーション診療 エビデンス&プラクティス. ワーク

ショップ 10 がんトリハビリテーション. 第 57 回日本癌治療学会学術集会. 2019/10/26. 福岡国際会議場 福岡県福岡市.

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし